

## 五 大八洲青年部の結成と後継者育成(昭和三十八年)

開拓二十年に近いこの頃、入植当時の児童をはじめ入植後出生した幼児もいわゆる開拓二世は青年期を迎え、未だ苦勞の多い大八洲開拓にも将来に夢を与えてくれるようになって活気がでてきた。そして次代を託する若者の健全な成長を願うとともに農業後継者としておおいに期待が寄せられてきた。農業後継者問題は当時から社会問題としても大きく取り上

げはじめてきた。そんな矢先、県の開拓組織の中でも後継者育成上からも青年部の組織化を図るため開拓者青年部を設けることが決定した。

昭和三十八年、県開拓青年部ならびに県南開拓協議会青年部の発足にともない、その五月に大八洲開拓農協も青年部を結成し、新しい大八洲開拓の建設に活動をはじめることにな

青年部研修



昭和49年 尾瀬行



昭和52年 富士登山



昭和56年 海水浴

組合の結婚式

組合二世のお婿さんを山形県から迎えて  
(於 浅間山公民館)



53年11月11日  
組合二世同士の結婚式  
(於 素住公民館)

った。そして、県南傘下の青年部との間にスポーツの交流試合をはじめ視察研修等各種行事が催されたので、青年開拓者として研鑽を積むとともに部員旅行、懇親会を実施して同志の親交を図り、さらにスキーに参加するなど開拓以外の青年男女との交流も行ってきた。

昭和四十五年八月には、新生開拓の青年部一行が来訪して組合婦人ホームにおいて研修・交換会を行った。

大八洲開拓農協は青年部に水田を提供し、麦と稲の耕作を共同作業で実施し、栽培技術を実地に学び、その生産販売の収益金を運営資金に充当し、部活の内容充実を図っている。

昭和四十年代から年々数を増して青年部の活動は活発となり、おおいに気炎も上がって開拓全般の活力ともなった。その青年達も五十年代に入ると結婚し、やがて農業経営ならびに組合員の資格を譲り受けて青年部を離れたので、最近では青年部の当時の盛況は見られなくなったことは心淋しいが、これも時代の流れによる一時期の現象でやむを得ないことである。しかし、ぼつぼつ三世代の若者も青年期を迎え、青年部に参加する者も最近でできたので将来が楽しみである。

開拓三代と申すが、この若い卵を大切に育てていくために組合もこれからの青年部の活動には一層力を注ぎ、健全な後継者が一人でも多く誕生することを心から切望し、大八洲開拓の灯りがこれから後も消えることのないよう願うものである。

大八洲開拓者の二世代の継承について示すと次のとおりである。

### 農業経営の継承状況

計	一世代							二世代		非農業の職業		
	経営別	戸数	経営受譲	離農者	水田耕作	水田養豚	水田肥育牛	水田酪農	養豚		肥育牛	酪農
七八	一七	四	二	一八	一八	二	一	一	一	一	一	五
六六	一五	三	二	一八	一八	二	一	一	一	一	一	一
一一	二	一	一	三	三	一	一	一	一	一	一	一
	会社員	後継者なし		会社員、教員、造園業								建築業、公務員